

## プリンストン大学での滞在

理学系研究科物理学専攻 博士課程 1年 逢澤正嵩

2017年10月に、ALPSの制度を利用して米国プリンストン大学に滞在し研究活動を行った。主たる滞在目的は、受け入れ先研究員増田賢人氏との共同研究である。現在進めている研究の解析の終了及び論文の執筆を目指した。また自身の研究の遂行に加え、増田氏の属する Winn 教授のグループの人々やその周辺の人々、訪問者達との議論を通じて様々な知見を得た。

プリンストン大学では様々なセミナーが開かれている。一番印象的だったのは、あるセミナーで、既に90歳を超えている Freeman Dyson 氏が鋭いコメント、質問を飛ばしていたことである。生涯現役を体現するその姿勢に深く感銘を受けた。私も滞在中、自身の研究をプリンストン大および NY のコロンビア大で発表する機会をいただき、様々なコメントを頂けた。

滞在中を通して英語の面などの課題は感じたものの、一方で多くの刺激を受けた。滞在中に様々な面でお世話になった増田賢人氏、仏坂夫妻、Winn 教授とそのグループの方々、プリンストン大のスタッフの皆様、そして支援してくださった ALPS 関係者の皆様に感謝いたします。



滞在中宿泊していた Lawrence Apartment。主に院生が住んでいる。